

第5学年 社会科学学習指導案

は組 男子19名 女子18名 計37名
指 導 者 上江洲 洋 志

1 小単元 工業生産と貿易

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに身の回りの工業製品を調べたり、自動車工業に従事する人々の工夫や努力を調べたりする学習を通して、我が国の主な工業生産の種類や、工業製品と自分たちの生活とのかかわりをとらえてきている。また、工業地帯や主な工業地域の分布について調べる学習を通して、我が国の工業生産の現状や特色を具体的にとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、工業生産を支える原料の確保や、できあがった工業製品の流通といった、より幅広い視野から我が国の工業生産を追究したいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、原材料の確保や製品の輸送などにみられる貿易や運輸の働きを追究する活動を通して、貿易や運輸が工業生産を支える大切な働きをしていることや、これからの貿易が、自国と他国のより良い関係を考慮してなされる必要があることを具体的にとらえさせるものである。また、写真やグラフ、地図や表などを活用し、我が国の工業生産を支える貿易や運輸の特色を、年代ごとに比較しながらその変化をとらえたり、変化の理由を輸出入品目の移り変わりや貿易相手国の移り変わりとを関連付けながら考えたりする力を高めさせていくようにする。

このような学習は、我が国や世界のよりよい環境の保全について追究する学習や、我が国と世界とのよりよい関係について考えたりする学習へと発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

我が国は、世界有数の工業立国であると同時に、貿易立国でもある。その変遷に目を向けると、戦後、鉄鋼、船舶といった重化学工業を発展させ、製品を海外に輸出することで経済成長を遂げてきた。資源が乏しい我が国が、原油などの燃料資源や工業原料などの大部分を海外から輸入し、それを加工・製品化して輸出する貿易のやり方は「加工貿易」と呼ばれ、我が国は多くの貿易黒字を得てきた。その一方で、高度成長期には、貿易の不均衡から貿易摩擦が継続的に生ずるようになったことから、海外で現地生産を進め、製品を逆輸入するメーカーが増え、貿易の仕方は、時代とともに変わってきている。また、輸出入品目や貿易相手国にも、時代による変化が見られる。さらに、自由貿易や、限りある資源をめぐる問題といった他国との関係に関する問題や、産業の空洞化といった国内に関する問題もあり、我が国の貿易を取り巻く環境は大きく変化してきている。

そこで、ここでは、貿易が工業生産を支える大切な役割を果たしていることをよりよく理解させるために、主な輸入品目と相手国、主な輸出品目と相手国を取り上げ、我が国の貿易の特色をとらえさせていく。その際、今後の我が国の望ましい貿易の在り方について考えを深めさせるために、時代ごとの輸出入品目や相手国を比較させ、その変化をとらえさせるとともに、変化の理由を考えさせる。また、現在の我が国の貿易の形態にかかわるよさや課題を明確にさせ、追究したことを基に、今後の我が国の貿易の在り方について価値判断させる活動を設定し、その理由を話し合わせることで、貿易に関心をもつとともに、自分の生活とのかかわりについて考えを深めることができるようにする。

そのために、まず、身の回りの工業製品の製造国や外国で使われている日本製品を調べる学習を基に、「どんなものを、どんな国から輸入したり、輸出したりしているのだろうか。」という問題意識をもたせ、我が国の貿易の特色について追究したいという意欲を高めさせたい。

次に、一人一人の予想を基に、自分なりの見方や考え方を生かした追究計画を立てさせ、写真やグラフ、表や地図等の資料を基に、自分なりに気付いたことを「輸入品と相手国」「輸出品と相手国」「貿易のよさと課題」の追究の柱から、グループや全体で話し合わせる。そして、輸出入品や貿易相手国を時代ごとに比較させながら、我が国の貿易の特色を整理させていく。

さらに、アジアを中心に行われている「海外生産」「逆輸入」という貿易の形態をとらえさせる

内容を付加し、その良さと課題をとらえさせる活動を設定することで、我が国の今後の望ましい貿易の在り方について価値判断するために必要な価値的知識をとらえさせる。そして、追究したことを基に、今後の我が国の貿易の在り方について価値判断させることで、獲得した知識や概念を基にした社会的な価値判断ができるようにしていく。

このような学習を通して、子どもたちは、我が国の貿易の特色について分かる楽しさや喜びを味わいながら、今後の望ましい貿易の在り方についての考えを深め広げていくことができる。

(3) 子どもの実態(調査人数 37 名, 質問紙法, 重複回答, 主な項のみ記述)

1	工業生産と貿易への興味関心 (複数回答)
	相手国(16) 貿易品目(12) 貿易額(10) よさ・課題(7)
2	貿易相手国(複数回答)
	【輸入】 アメリカ (24) 中国(20) オーストラリア(15) フィリピン(4) サウジアラビア(6) その他(4)
	【輸出】 アメリカ(22) 中国(16) オーストラリア (10) カナダ (4) その他 (7)
3	貿易品目(複数回答)
	【輸入】 石油 (25) 食品(21) 天然ガス(8) 鉄 (7) 機械類(5) 無回答(3)
	【輸出】 車(20) 食品(16) 機械 (14) 無回答 (3)
4	貿易上の課題 (複数回答)
	値段(関税) (7) 相手国との関係 (5) 必要量の確保 (3)
5	貿易ができなくなるとどうなるか
	工業への影響(10) 物資不足→生活への影響 (9), 物価への影響 (5) 無回答(6)
6	資料活用力
	①表 (川辺仏壇作りにかかわる人の数) 変化 (28), 項目ごとの比較 (7)
	②グラフ (鹿児島市の人口と水を使う量の変遷) 人口と使用料の関係 (19) 変化 (15)
	③地図 (南さつま市から水をひいている様子) ・平川浄水場の水は南さつま市からきている (23)
7	まとめ方
	新聞 (25) ポスター (4) 壁新聞 (4)

この学級の子どもたちの、工業生産と貿易についての主な見方や考え方は次のとおりである。

単元の学習で追究したいことについては、貿易相手国や貿易品目に関心をもつ子どもが多い。これは、食料品をはじめとして、子どもの身近に輸入された品物が比較的多いからであると考えられる。次に、貿易相手国については、輸入、輸出ともにアメリカと中国を上げる子どもが多い一方で、活発な貿易が行われている韓国や、東南アジアの国々を上げる子どもはほとんどいなかった。また、貿易品目については、石油を輸入していると答えた子どもが多い一方で、鉄鉱石や石炭といった他の資源を上げる子どもは少なかった。さらに、輸出については、全体的にあまり多くの品目が上がらなかった。これは、日常における報道や学習の経験に差があること原因であると考えられる。次に、貿易上の課題や貿易ができなくなった時の影響については、知識や考えをもっている子ども

自体が少ない。これは、新しく学習する範囲である、「貿易」に対する見方や考え方が十分に育っていないからであると考えられる。資料活用力について、グラフや地図、表にかかれていることを読み取るだけでなく、資料に書かれている事柄同士を比較したり、関連付けて考えたりできる子どもが多い。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえ、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

原材料の確保や製品の輸送などにみられる貿易や運輸の働きをよりよくとらえさせるために、「輸入品と相手国」「輸出品と相手国」「日本の貿易よさと課題」といった追究の柱を設定する。その際、過去と現在の貿易の形態とを比較しながら、よりよい貿易の在り方について価値判断するために必要な知識や概念をとらえさせていきたい。

ア まず、身の回りの工業製品がどの国で作られた製品かを調べる活動を基に、身の回りの多くの製品が海外から輸入されているという事実をとらえさせたり、海外を走る日本車の写真から、日本から海外へ輸出をしているという事実をとらえさせたりする。そして、これらの事実から、「どんな国と、どのような品物を輸出入しているのだろうか」という問題意識をもたせ、日本の貿易について追究していきたいという意欲を高めさせたい。

イ 日本の貿易の特色を明らかにするために、まず、グラフを基に、1980年ごろの輸出入品目の内訳を比較させ、当時、貿易の主流形態であった「加工貿易」をとらえさせる。次に、「日本車を壊す外国人の写真」から、「なぜ、日本車を壊すのだろうか」という疑問をもたせ、その理由を貿易の不均衡と関連付けてとらえさせる。そして、現在の輸出入品目を1980年代のものと比較させ、その違いを話し合わせることで、何が、どう変わっているかを明らかにさせていく。その際、「海外生産」による「逆輸入」と「現地販売」という企業の生産、販売形態のよさと課題をとらえさせることで、今後の貿易の在り方に対する価値判断をするために必要な価値的知識

をとらえさせる。

ウ 追究したことを基に、単元の終末において、自国と他国双方の発展につながる今後の貿易の在り方について価値判断し、判断した理由を吟味し合う活動を設定する。その際、追究に際して用いた資料や、まとめたことを基に、根拠を明確にした判断となっているかを吟味させたり、根拠と主張の整合性を吟味させたりする。さらに、自己の判断とその理由の深まりを実感させるために、討論的活動を振り返る場を設定し、単元当初と単元終末の自己の考えを比較させたい。

3 目 標

- (1) 我が国の貿易の様子に関心をもち、主な相手国や輸出入品目の変化を主体的に調べたり、調べたことを基に今後の望ましい貿易の在り方について話し合ったりまとめたりすることができる。
- (2) 我が国の貿易の様子について、主な相手国や輸出入品目の変化を調べ、その理由を他国との関係から説明するとともに、今後の望ましい貿易の在り方について価値判断したり、たがいの判断の理由を話し合い、吟味し合ったりすることができる。
- (3) 我が国の貿易の様子について、表やグラフ、写真などの資料を活用して必要な情報を集めるとともに、調べて明確になったことを新聞などにまとめることができる。
- (4) 我が国が、様々な国とかかわりながら、貿易をしていることをとらえるとともに、貿易が、我が国の工業生産を支える重要な役割を果たしていることをとらえることができる。

4 指導計画(全8時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ・立てる	1 身の回りの工業製品の生産国を調べることで我が国が様々な国と貿易を行っていることをとらえ、学習問題を設定する。 我が国は、どんな物を輸出入しているのだから。また、どんな問題点があるのだから。	外国製の品物が 多くあるぞ。 外国で使われている 日本製品もあるな	㊟ 実物(子供の文房具等) ㊟ 写真(海外を走る日本車) ○ 日本が、様々な国と貿易を行っているという事実をとらえさせ、相手国や内容についての問題意識をもたせるために、身の回りの工業製品の生産国を調べさせ、気付いたことや感じた疑問を話し合わせる。
	2 互いの疑問や関心を基に、調べる内容や方法話し合い、追究の計画を立てる。 [調べる内容：追究の柱] ○ 輸入品と相手国 ○ 輸出品と相手国 ○ 我が国の貿易の特色と課題	日本は、多くの国とものを売ったり買ったりする貿易をしているんだな。 「どんな国と、どんなものを、どれくらいやり取りしているのかな。貿易をするよさや課題は、どんなところにあるのかな。」	○ 追究への見通しを持たせるために、子供の気付きや疑問を類型化し、追究の柱を立てさせる。
調べる	3 貿易相手国や貿易品目について調べ、話し合う。 【輸入】 ・石油 ・鉄鉱石 アメリカ、中国 インドネシアなど 燃料や原料 【輸出】 ・自動車 ・機械類 アメリカ、中国、韓国など 工業製品 加工貿易	石油や鉄鉱石など、燃料や原料を多く輸入しているよ。 自動車や機械など、完成した製品を輸出しているよ。 日本の貿易の仕方は、「加工貿易」と呼ばれてきたんだな。 「多くの製品を輸出することで、日本は世界有数の工業大国に成長してきたんだな。」	㊟ グラフ(輸入品と相手国の内訳) ㊟ グラフ(輸出品と相手国の内訳) ○ 従来の我が国の貿易が、原料を輸入し、高い技術で製品化し、海外へ輸出する「加工貿易」と呼ばれる形態であったことをとらえさせるために、輸出品と輸入品を比較し、その違いを話し合わせる。
	4 貿易にかかわる課題と、課題に伴う貿易の変化について調べ、話し合う。 【他国との関係】 ・貿易摩擦 ・他国の情勢 【自国の状況】 ・原発停止 ・貿易赤字 自国や相手国の状況による変化	日本の輸出ばかりが多いと相手の国は困るな。 貿易は、互いの国の状況に左右されるな。 日本の企業なのに、海外で生産する企業が増えているのはなぜだろう。 「海外で生産することで、貿易摩擦の解消につながるよ。」 輸送費や人件費が抑えられるから、安く生産できるよ。	○ 従来のが貿易が、貿易摩擦という課題を生んだことをとらえさせるために、自動車を壊す理由を、貿易額と関連付けて話し合わせるとともに、その解消のために輸出量の規制をしたことをとらえさせる。
まとめる・広げる	5 近年見られる貿易の形態を調べ、その良さや課題を話し合う。(本時) 【逆輸入】 ・コストの削減 ・貿易の均衡 【現地販売】 ・販路拡大 ・現地のニーズ 自他の発展を考えたバランス	製品を逆輸入する企業は、国内で安い品を販売したいと思っているよ。 海外で販売する企業は、新しい販売先を求めているよ。 でも、日本やその国の工場にとっては、困る場合もあるよ。 お互いの発展を考えたバランスをとりながら生産や貿易をすることが大切だね。 これからの貿易の在り方を考えると、そのバランスをどう取ればいいのか。	㊟ 写真(日本車を壊す外国人)、グラフ(輸出額と輸入額の変化) ○ 従来の貿易が、貿易摩擦という課題を生んだことをとらえさせるために、自動車を壊す理由を、貿易額と関連付けて話し合わせるとともに、その解消のために輸出量の規制をしたことをとらえさせる。
	6 これまでの学習をまとめ、調べたことを基に今後の我が国の望ましい貿易の在り方について価値判断する。 我が国は、多くの国と貿易をすることで、工業生産を発展させてきた。今後は、互いの国の発展を考えた貿易をより進めていくことが大切である。	海外生産を進めるべきだ。 逆輸入を進めるべきだ。 状況に応じ、調整していくことが必要だね。	㊟ グラフ(貿易額の変化)、年表(日本や外国の主な出来事) ○ 貿易が、自国や他国の政治や経済の状況に影響を受けることをとらえさせるために、日本が貿易赤字になった理由を、東日本大震災による原発停止とそれに伴う石油輸入量の増加とを関連付けて話し合わせ、気付きを発表させる。
②	7 価値判断したことを話し合い、判断の妥当性を吟味する。		㊟ 地図(海外生産している企業の原料の調達先、工場、出荷先) ○ 海外生産する企業が増えている理由をとらえさせるために、人件費等の生産コストを日本と海外で比較させ、その違いと、価格の違いとを関連付けて話し合わせる。 ㊟ 追究に用いた資料 ○ 追究して得たことを基に、「今後の我が国の企業は、海外生産をどこまで進めていくべきか。」という論題について価値判断させ、その理由を話し合わせる。

5 本 時 (6 / 8)

(1) 目 標

日本のメーカーが、海外に工場を作り、生産している理由を追究する活動を通して、二つのメーカーの方針を比較することで、「逆輸入」と「現地販売」という、二つの考え方の違いをとらえ、そのメリットとデメリットを説明することができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、海外生産を行っている理由を、コストの低減による販路の拡大の点からとらえさせるために、工場がある国の物価や人件費、輸送費といったコストを日本と比較させてその違いを販売価格と関連付けて話し合わせていく。その際、海外生産を進めることは、貿易摩擦に配慮した取組であると同時に、解決すべき課題があることについてもとらえさせていくことで、今後の望ましい貿易の在り方について価値判断するための価値的知識をとらえさせていきたい。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
の 追 究 問 題 化 題	1 追究問題を確認し、具体化する。 この文房具は、中国製だけど、作っているのは日本のメーカーだ。	(分)	㊟ 実物 (日本メーカーが海外生産した商品)
追 究 計 画	なぜ、日本でも製造できるのに外国で製品を製造するのだろうか。	↑	○ 工業製品とその生産地を比較し、海外生産をする理由についての問題意識を高めさせるために、海外生産された製品が、日本のメーカーであるという事実気付かせ、その理由を予想させる。
	2 追究方法について話し合う。 ○ 生産の現状→生産する理由	7	○ 解決への見通しをもたせるために、「何を調べていけば、海外生産する理由が明らかになるか。」を問いかける。
	3 日本のメーカーの中で、海外生産をしているメーカーがある理由を話し合う。 (1) 海外生産をする理由を話し合う。 (2) それぞれの良さと課題を話し合う。	×	㊟ 表 (アジア各国と日本の人件費、物価) 地図 (海外生産、逆輸入している企業と現地販売している企業の工場の場所と販売先)
追 究 問 題 の 究 明	【海外生産をする理由】 海外生産 ↔ 国内生産 ※ 輸送費 物 価 人件費 ※ 輸送費 物 価 人件費 貿易摩擦への配慮 国内に逆輸入して販売 現地で販売 コストを下げて日本で安く売る。(▲国内産業の空洞化) 新しい販売先を、海外に求める。(▲国内産業の空洞化) 自分たちの製品を多く販売したい	30	○ 海外生産をする理由のひとつに、コストが低く抑えられることをとらえさせるために、「海外生産をすることで日本よりも安く抑えられるものは何か。」と問いかける。人件費、地価、電気代といったコストを、日本で生産する場合と海外生産する場合とで比較させ、その違いに着目させることで、生産コストと販売価格とを関連付けながら、そのメリットを話し合わせる。その際、原料の調達や雇用の点で、他国の利益にも配慮しているというよさもとらえさせる。
	5 本時の学習をまとめる。 製品を安く作って逆に日本に輸入したり、現地での販売拡大をしたりするために海外で生産している。	×	○ 二つの企業の製品の販売先を比較し、それぞれの企業の方針をとらえさせるために、販売先の違いに気付かせ、「誰にたくさん買ってもらうための方法か。」を問うことで、それぞれの企業の考え方の違いを話し合わせる。その際、「多く買ってもらうことが、誰のためになるのか。」と問いかけることで、国内外の消費者のためのコスト低減だけでなく、企業としての収益を上げるための方針でもあることに気付かせる。
ま と め	6 本時の学習について振り返る。 二つの企業の考え方の違いを考える場面での、A君の考えでみんなの話合いが動き出したよ。	8	㊟ グラフ (国内、国外の工場の従業員数) ○ どちらの形態にもデメリットが伴うことをとらえさせるために、海外の工場に働く現地の人々の数と国内の工場に働く人々の数の変化を比較させ、気付きを話し合わせる。
		↓	○ 追究問題に対する自分の考えを吟味させるために、キーワードを観点として、自分なりに考えた本時のまとめを互いに評価させる場を設定する。その際、友だちの考えを聞き、加除修正したい箇所は、色ペンで書かせる。
			○ 追究問題を解決できた喜びや学び合いの価値を実感させるために、自分の考えが役に立ったことや友達の意見で考えが深まったことを問い、称賛や価値付けを行う。